

▶ 肝炎治療の現状を報告する岩根医師



佐賀県での死亡率が高い「肝がん」と身近な生活習慣病である「糖尿病」について、早期治療の重要性を住民に伝えるため「肝がん・糖尿病予防講演会」を2月28日、中央公民館で開催しました。

講演会は多久市・小城市や医療関係者ら104人が参加し、肝がんと糖尿病についての知識を深めました。

一部では、「肝炎の最新治療 新薬登場」とのテーマで佐賀大学医学部岩根紳治いわねしんじ医師による肝炎ウィルスと肝がんの関係性やC型肝炎治療でインターフェロンの併用不要で副作用の少ない画期的な新薬の説明などがありました。

二部は、佐賀大学医学部山口美幸やまぐちみゆき医師による「知らないうちに忍びよる糖尿病」とのテーマで糖尿病の原因、検査、合併症やセルフチェックシートの紹介、治療についての講話がありました。

講演後には個別相談コーナーや足の病変を調べるフットケアコーナーなどが設けられ、参加者は医師、薬剤師、栄養士、看護師などから具体的なアドバイスを受けていました。

小城市から参加した女性は「貴重な話が聴けて自分のためになりました」と感想を話しました。

▶ 糖尿病足病変のチェックを受ける男性



肝がん・糖尿病予防講演会

▶ 児童にアートの魅力を伝える富永さん



フースト1位の汚名返上に向けて

中央校6年生が小学部卒業記念として、2月25日に「ポンドアート」を中央校多目的室で制作しました。

「ポンドアート」とは、北多久町在住の富永ポンドさんが考案したもので、木工用ボンドに色を混ぜて、立体的に絵を描く技法です。今回、富永さんを講師に招き、小学生とのコラボが実現しました。

各クラス代表の実行委員12人が「つなぐ」をテーマに、2つの顔が向かい合う、大小115か所の色鮮やかな抽象画をデザインし、縦90センチ、横180センチのキャンバス6枚に、6年生115人全員で制作しました。

実行委員の江里口くるみさんは「むずかしかったけど、すごく楽しかった。木工用ボンドで縁取りしたことで印象がかわり素敵になった」と語りました。

小学校で初の講師を務めた富永さんは「子どもたちに絵を描く楽しさを味わってほしい。失敗もアートです。絵を描くプロセスを楽しんで、これを思い出にしてほしい」と卒業生へメッセージを送りました。

▶ 児童と卒業記念の抽象画を制作する様子



中央校6年生卒業記念制作

115人の思い出を「ポンドアート」に込めて

3/7 Sat.

「へえ〜っ」がいっぱい。東多久町の歴史探索



あたたかな春の日差しの中、東多久町史跡めぐり（東多久公民館主催）を羽佐間・石原地区で開催しました。

今回で4回目となるこの催しには、70歳から小学1年生までの30人が参加。羽佐間地区に残る四反田遺跡など6か所を生涯学習課なかつかけいすけの高塚啓介さんによる説明や由来などの解説を聞きながら歩いて巡りました。

「三夜待」や「六夜待」の解説では、大人の参加者からは「へえ〜っ」と驚きの声が聞かれ、児童は「もっと早く行こう!」と史跡めぐりよりも、ちょっとした「遠足」を楽しんでいる様子で、大人と子どもそれぞれの探索を楽しみました。

3/7 Sat.

初心者でも大丈夫。さあ始めよう! チャレンジICT!!



はじめてのスマホ・タブレット講座in多久（佐賀県高度情報化推進協議会主催）が、市民の情報リテラシー向上を目的として「あいぱれっと」を会場に開催され、104人が参加しました。

受講者はiPhoneやiPadの実機に触れながら機器の操作や機能、アプリの使い方などを学習。Facebook講座では、交流の方法やマナーなど熱心にメモをとりながら受講していました。

小学4年生の児童と一緒に受講した保護者は「子どもと楽しい体験が出来ました。特にインターネットの楽しさや注意すべきことを一緒に学べたことは大変良かったです」と話しました。